



おもちゃ箱なごplus 事業者における児童発達支援自己評価表

公開日：2024年3月31日

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>			広いスペースの確保は充分だと思う。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	<input type="radio"/>			適正ではあるが、スタッフの目が多いに越したことはないので増員検討したい。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	<input type="radio"/>			配慮はしているつもりだが、外部（保護者やその他関係機関の方々）からの声に耳を傾けその都度整備等を行っている。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<input type="radio"/>			コロナ流行以降、消毒をこまめに行い清潔な空間を保つよう努力している。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>			毎朝ミーティングを行い、問題があるときはみんなで話し合っている。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		<input type="radio"/>		毎年行っている。保護者の貴重な意見を参考に環境整備や業務改善につなげるよう意識している。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>			毎年公開している。今後も継続していきたい。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			<input type="radio"/>	外部評価は行っていない。今後検討していくと話し合っている。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>			外部の研修会に、職員が交代で参加。社内研修も本社より講師が派遣されたり、オンライン研修等多彩。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>			契約時、相談員、保護者、利用事業所が集まり担当者会議で話し合い計画を作成し利用開始する。その後も密に連絡を取り合う。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		<input type="radio"/>		事業所独自のアセスメントツールを利用している。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	<input type="radio"/>			支援内容は、相談員、保護者、他事業所との話し合いの中で長期目標を掴み、事業所にて短期目標を制定し、具体的な目標（支援内容）を考え計画を立てている。

適切な支援の提供	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	<input type="radio"/>		個別・集団支援を上手くわけて支援している。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>		管理者中心に、スタッフ全員で話し合って活動プログラムを組み立てている。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>		基本的に変わらないが、子供が飽きないように工夫している。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		個別と集団の組み合わせをスタッフ総出で話し合って計画を作成している。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<input type="radio"/>		毎朝のミーティング時その日の流れや内容、役割分担など確認できている。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<input type="radio"/>		送迎後、その日の振り返りし、スタッフでの共有とする。休んだスタッフの為に必要な情報は業務日誌にも記入。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<input type="radio"/>		支援記録・業務日報も記録し、職員全体の共有は勿論、ミーティングで検証改善を話し合っている。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>		モニタリングは相談員が中心になり行う。その前にスタッフ間のミーティングにて目標の達成度等話し合う。
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	<input type="radio"/>		児発管メインではあるが、現場スタッフ含めて児童と関わりの深い者が参加。コロナ後オンラインや書面、対面、いろんな形があるが参加できている。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	<input type="radio"/>		直接の連携がない。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	<input type="radio"/>		相談員中心に、保護者、園長先生、担任、事業所で話し合い情報の共有を行っている。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	<input type="radio"/>		相談員中心に、保護者、SSW、担任、事業所で話し合い情報の共有を行っている。送迎時にも担任とは顔を合わせ、申し送りをしてもらい状況を把握できている。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	<input type="radio"/>		常日頃から、他事業所とは連絡を取り合っている。今後も続けていく予定。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		<input type="radio"/>	コロナやインフルの感染症がなくなり、交流の機会はなかった。

	②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			管理者、児発管中心に積極的にスタッフが交代で参加出来ている。
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			モニタリングではもちろんですが、日ごろの送迎時、電話やLineでのやりとりでも、気軽に連絡ができる状況を作っている。
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		事業所でのペアトレは行っていないが、電話やLINEでいつでも相談は受け付けている。今年度は資質向上のため、職員が研修を受講し、要望があれば動けるよう準備
保護者への説明責任等	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に、管理者や児発管によって説明を行っているが、わからない事はいつ聞いても答えられるよう務めている。
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			契約、モニタリング等でニーズを確認し、支援計画書を作成後、保護者へ支援内容を確認しながら説明をし同意を得て支援を進めている。
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			普段から、いつでも相談しやすい環境作りをしている。児童の居ない時間に来所してもらい相談に応じ助言をしている。
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○	コロナ後、感染症が残っていることから、まだ保護者会の開催など行っていない。
	③6	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			相談や申し入れについては、スタッフ全員ですぐに検討し対応を周知している。(その日のうちで動けるよう、迅速に対応できる準備をしている。)
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			活動内容やカレンダーを作成し、利用予定日にシールを張り、送迎時に保護者へ申し送りとともに直接渡している。
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している	○			個人情報に関係するものは全て鍵付き保管庫へ。SNSへの写真掲載は保護者へ同意書もらっている。
	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			目線の高さを合わせ話をし顔を覚えてもらう。笑顔で対応する。
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○	コロナ後、大きな行事を行っていない。(機会がない)
	非常時等の	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している			○
④2		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			定期的に、年2回だが、機会を見て増やしていきたい。(AEDの訓練は行った。)
④3		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			契約時に確認。投薬についての指示書も事前に説明を受けている。
④4		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			保護者から医師の指示書について事前に説明を受けて対応している。

対応	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		何かあったとき、ヒヤリハット作成し、職員への共有、本社への連絡。(ちょっとしたヒヤリハット、気づきも書いておくのが後々のため)
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		外部研修や、定期的に社内研修をしている。(本社より講師派遣など)
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		契約時、支援計画書の更新時に身体拘束が必要そうな児童の保護者については説明を行っている。今後さらに保護者への説明を徹底し理解を求める。